

横地分類(改訂大島分類)

「移動機能」、「知的発達」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

E6	E5	E4	E3	E2	E1
D6	D5	D4	D3	D2	D1
C6	C5	C4	C3	C2	C1
B6	B5	B4	B3	B2	B1
A6	A5	A4	A3	A2	A1

〈知的発達〉
 簡単な計算可
 簡単な文字・数字の理解可
 簡単な色・数の理解可
 簡単な言語理解可
 言語理解不可

〈特記事項〉

C: 有意な眼瞼運動なし
 B: 盲
 D: 難聴
 U: 両上肢機能全廃
 TLS: 完全閉じ込め状態

寝返り不可
 寝返り可
 座位保持可
 室内移動可
 室内歩行可
 戸外歩行可
 (移動機能)



いものを選ばなければなりません。そうして、居場所と姿勢を決めねばなりません。このように、重症心身障害児(者)の居場所と姿勢は奥の深い問題です。施設職員は、最も豊かな生活につながる見る経験ができるように居場所・顔の向きを何度も変えていかなければならないと考えています。

ほのかの 日常活動紹介 真木 希

Aさん(横地分類A1)の活動は、職員とAさんとの距離が出来る限り近くなるように、ベッドのヘッドボードを外して始めます。『がちやがちやどんどん』の絵本を視線の先に見えやすいように広げて待ちます。するとAさんの頭がわずかに動き、口をすぼめて何かが始まる様子を期待したような表情になります。

「がちやがちや」、「どんどん」と短いフレーズを区切りながら語りかけます。フレーズごとの間で、次のことばを発するタイミングを意識して読みます。Aさんの瞬きが次第に減っていき、視線がじつと絵本の方向で止まり、集中している様子が感じられました。『おしまい』で裏表紙を見せて絵本を閉じると途端に瞬きが増え始め、集中が解けたような様子になります。ウッドブロックを用いてのリズム活動もしています。二つの音を使い「トントンコン・トントコン」と数回繰り返していくと、集中して耳を傾けている様子が、音が聞こえる方をしっかりと見つめる強い目の力に表れます。最後に「トントンコンコントントントコン」とリズムが変わると、それまでじつと集中して聞いていた表情から、視線がキョロキョロと動き出し、リズムが変わったことに気がついた様子になります。そしてウッドブロックのリズムが聞こえなくなると、それまでのはっきりした表情、目の輝きから一転、ふっと緩んだ目元になりました。集中してリズムの変化を楽しんでいたのだと感じました。



Bさん(横地分類A1)は、頬や頭をそっと触れられると、口元を上げて心地良さそうな表情になります。活動中のじつと聞き入る様子は、触れられて心地良さそうな時とは違い、集中している気持ちを感じられます。紙コップに輪ゴムを張った手製の楽器を使い、音のリズム活動をしています。輪ゴムを大きく弾くと「バチン」という音になってしまうため、やさしくそっと弾いて「ビヨン・ビヨン・ビヨン」というような、小さい僅かな音の響きを作ります。このやさしい小さな音で「ビヨン・ビヨン・ビヨン」と単調なリズムを繰り返して鳴らしていきます。同じリズムを3回続けたあとは少し間をおきま



す。同じリズムが繰り返して聞こえている時には、瞬きが少なくなり、はつきりとした表情で、視線の動きが止まってじつと聞くような表情は、集中している時です。リズムの間があくと、瞬きが増えて口元が動き出し、音がなくなると気持ちが緩んだように感じます。再び単調なリズムが始まると、集中して聞き直す様子になり、ゴムの僅かな音の響きとリズムに集中している気持ちの動きが、ぐつと伝わってきました。

